
最後の恋...。

HIRO.S

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

最後の恋

【著者名】

HIRO・S

【あらすじ】

駅であなたに一目惚れっ！でもね…あなたで最後…。私…。

(前書き)

叶わない恋のセカンドストーリー。優里の視点で書きました。女性
目線は難しいです。

『お前なんて死ね』

『うざい…』

『消えろ…』

私が、いったい何をしたっていうのだらうへ。
いつもそんな事ばかり考えている…。

私は中学に入つてから、ずっとといじめられしてきた。
社会人になれば、いじめなんてなくなると思つてたのに…なくな
らなかつた。

もちろん、理由なんて分かるはずもなく…。

そんな事もあって、私は自分の意思をなくしてしまつたの…。
何を言われたって…ずっと我慢して生きてきた。
言いたい事もやりたい事もたくさんあつたのに…。

でもね、ある日あなたに出会つたんだよつ。
あなたは、とても優しそうな人だつたよ。一目でそう感じた。
私の存在をあなたは知つていたのかな…？
毎日、同じ時間に電車に乗つてたんだよつ。

あなたを初めて見かけた時、あなたは駅の売店で、順番を抜かさ
れてたね…。

だけど、その人に何も言わなかつたよね。
きっと私も何も言わなかつたよ。うつん…きつと言えなかつた…。
もしかして、あなたもずっと我慢して生きてきたのかな…？。

ごめんなさい…。

私…あなたに恋しちやつたみたい。

会社に行くのは嫌だけど、電車であなたに会えるのが…唯一の幸

せだった。

でもね、もう耐えられないよ……。

今の会社を辞めたって、また同じ事の繰り返しだと思つかう……。

だから決めたんだ……。

一日だけ、自分に素直に生きてみようつひ。

一日だけでいい……。

だつてもう疲れたよ……。

…

「今日は遅いな……」

今日は素直に生きるつひ決めた日…私はいつもより早く駅に向かつた。

あなたに気持ちを伝えたくて……。

それなのに、あなたは現れない……。

どうして……？神様お願い……意地悪しないで……。

すると、あなたは慌てた様子で走ってきた。

どうしたの？朝寝坊かな……？

電車はあなたを置いて進んでいった。

そして、あなたと田が合つた。

恥ずかしそうに微笑んでるあなたの事を、私は愛しく思えた。

「遅刻ですね？」

私はあなたに歩み寄つて、声をかけてみた。
すごくドキドキしてたんだよ……。気づかれてたのかな……？

初めて聞くあなたの声は……とても優しい声だつた。想像したとおり……。

あなたは、私の言葉にすゞく驚いていたね。
本当はね……すゞく怖かつた……。変な女だと思われそつて……嫌われちやいせつで……。

「いこよ……」

あなたは、私の言葉を受け入れてくれたね。すゞく嬉しかつた。
ありがとう……。

「名前は？僕は神咲春人」

そういう名前だつたんだね……。あなたは『春人でいいよ』 そう言つてくれたけど、春くんつて呼ぶからねつ。

映画館に行つたね。

どうしてあの映画を選んだの？ずっと観たかつた映画だつたから
ビックリしたよ。
ありがとう……。嬉しかつた。

「泣いてるの？」

映画が終わると……あなたは私の顔を覗きこんできた。

「泣いてないよ……」

私、嘘ついちゃつた。

でも知つてるよ……。

本当は、あなたも泣いてたよね？言わなかつたけど……。

「お腹空かない？」

そう言つて、あなたが知つてゐるお店に連れていってくれたよね。一緒にお昼ご飯食べたよね。ハンバーグ…本当に美味しいそつに食べいたよね。

まるで子供のよう…。

「あのねいぐるみ、すゞぐわわいいね？」

私がそう言つと、あなたは夢中で取ろうとしてくれたよね。私もチャレンジしてみたけど、ダメだつた。

一人でプリクラ撮つたよね。まさか、あなたと一緒に撮れるなんて思つてなかつた…。

二人して変な顔…。あなたといふと、時間はあつとつ間に過ぎていく。

ずつとこのままでいれたらな…なんて思つちゃたりして…。あなたと過ごす時間も…次第に少なくなつていく。

夕日も沈み、夜空には綺麗な星たちが輝きだした。いつもより綺麗に見えたのは、隣にあなたがいたからかな…？

「携帯番号教えてくれないかな…？また会えるよね？」

本当に嬉しかつたよ。でもね、もう会えない…。あなたの田…じつと見れない。

「ずっと好きでした…」

「」の言葉だけを伝えたかったの…。

どうしたのかな？涙が止まらない。。

いきなり…走りだして驚いたかな…？嫌われたかな…？

自分勝手だよね…？

ごめんなさい…。

私ね…昔、通つてた中学校の屋上にきてるの…。
すごく嫌いな場所…。

あなたは…今、何してるのかな…？もう寝ちゃつた？
二人で撮つたプリクラ…やっぱり変な顔…。一枚くらい…真面目
に撮ればよかつたね？

自分が出した答えが間違つてるなんて、分かつてるよ…。
私には…こんな答えしか出せなかつた。

最後に春くんと一緒に過ごさせて…本当によかつた。

あなたからすれば、迷惑だよね…。

これからもずっと…あなたの事を見続けてもいいですか…？

どんな人と幸せになるのかな…？

あなただけは…ずっと幸せでいてね。

私、今までいじめられてきたけど…その人たちを恨まないよ…。
これは自分で出した答えだから…。

バイバイ…春くん…。

さよなら…。

ありがとう…。

最後の恋…。

(後書き)

最後まで読んでくれた人ありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4617d/>

最後の恋...。

2011年1月20日05時11分発行